

生徒指導の機能を生かす道徳学習指導案

福岡市立
6年

小学校

1. 主題名 ゆきこさんの誕生日（道徳）

内容項目 2－3 信頼・友情 4－5 家族愛

2. 指導観

（1）児童の実態

信頼・友情および家族愛に関する、本学級の児童の見方・感じ方・考え方の実態は、下表の通りである。

信頼・友情	家族（愛）
<ul style="list-style-type: none">・困っている人がいたらみんなで協力してくれる。・いろいろなことを分け合っていてくれる。・お互い助け合うこと。・仲間どうし力を合わせること。 ・友達やみんなで助け合っていくこと。・何かうれしいことがあったら、一緒に喜んで、悲しいことがあったらなぐさめてくれること。・友だち等の人から信用されていること。・助け合って苦しいことも一緒に乗り越えてくれる・何でも相談できて助けてくれる。 ・友だちと仲良くし合っている事。・人を信じている事。	<ul style="list-style-type: none">・友達より信用できる。 ・洋服を洗濯してくれる。・どこかへ連れて行ってってくれる。・ご飯を食べさせてくれる。・みんなより親しみを待っている。・自分が困っているとき、助けてくれる。 ・悲しいことなど支えてくれる。・一緒に助け合って暮らしている事。

友情・信頼の内容項目については、ほとんどの児童が互いに支え合い、協力していくことを挙げている。これは、「よろこびや悲しみを分かち合える仲間」という学級目標やそれをもとにした取り組みによって獲得されたものであると考えられる。学級の児童の中で、際立った対立が起こることは少なく、何にでも協力して取り組む体制ができている。

しかし、未だ「仲良し集団」的な、表面上の結びつきに流されている傾向もある。例えば、友だちの明らかな間違いを容易に許してしまったり、不問にしたりすることも見られ、互いに厳しい（正しい）要求を出し、共に高まっていく姿はあまり見られない。従って、少人数という固定化された集団関係にあっても、真にそれぞれが高まっていくための集団のあり方、さらに、それを支える友情・信頼についてより深く考えさせる必要があるものと思われる。

さて、家族愛の内容項目については、どの児童も家族を自分の生活や心の拠り所として捉えていることが分かる。安定した家庭生活の上に、この認識が獲得されていると見てよい。

しかし、ほとんどが「～してもらおう」という受け身の姿勢によって語られている。現在、まさに自立しようとしている段階の児童にとっては、家族への依存もまた必要条件である。そのため、家族の中に自分を相対化して位置づけられず、こうした認識が前面に出てきたものと考えられる。

実際には、全ての児童が家庭で何らかの仕事を分担している。こうした点から、自分自身が家族にとってどのような関わりができ、役割を果たせるのか、さらにそれを支える家族愛について考えさせていく必要がある。

(2) 教材・方法について

○ 主題について

(a) 内容項目について

本主題では、信頼・友情と家族愛との間で起こる葛藤場面を中心に児童に道徳的問題場面として考えさせる。

① 信頼・友情

信頼・友情の基本は、他者の立場にたって考えるということである。そして、究極的には、相互の切磋琢磨が目指されなければならない。互いに励ましあったり、助け合ったり、また、時には厳しく忠告をし合うことが大切になってくる。

◇道徳性の発達段階（コールバーグの道徳性の発達理論より）

・段階1

自分で主体的に物事を考えず、権威あるものに従って判断する傾向にある。そのため、真の意味では相手の立場にたって考えることができず、信頼・友情を築くことが難しい。

・段階2

他者との人間関係を道具的に考え、他者より自己の利益が優先するため、段階1と同様に真の意味では相手の立場では立てず、安定した信頼・友情関係を築くことはできない。

・段階3

友情の目指すべき切磋琢磨の精神は、段階1・2の特徴である他律性自己中心性を克服させることである。そして、相手のことを思いやることの大切さに気づかせたり、相手の成長を願う友としての責任を自覚させたりすることである。この段階に近づけることにより、安定した信頼・友情を育てることができる。

② 家族愛

円満な家族関係をつくりあげるためには、家族の一員としての自覚をもち、利己的な心を排し、相互に思いやり敬愛する心が基本になる。

◇道徳性の発達段階（コールバーグの道徳性の発達理論より）

・段階1

児童の家族愛に基づく行為は、その動機が罰回避のため、権威ある父や母に従うという傾向にある。そのため、罰がない時または、権威ある者がいない時は、その価値に基づく行為は実現しにくい。

・段階2

ここに属する児童は、自己の利益や欲求を満たすことを価値とする。そのため、家族の中では、自己にとって有益である時は、その価値に基づいて行為をするが、自己にとって有益でない時は、価値に基づく行為ができにくい傾向にある。そのため、自己本位の家族愛になりがちである。

・段階3

ここに属する児童は、家族の一員としての責任を自覚し、安定した人間関係を大切にす。そのため、よりよい家庭を形成するための家族の一員としての資質を備えることができる。

本主題でのねらいは、これら二つの価値観での葛藤の経験から、自分なりの解決に到るまでの過程を通して、より高次の道徳的思考に気づかせることにある。具体的には、それぞれの児童の道徳的思考の段階よりも1段階上の道徳的思考に気づかせることである。

(b) 資料について

①資料の構造

<p>友だち</p> <p>[由美との約束] [転校していった友達も会いに来る] → [ゆきこの誕生日会] →</p> <p>[転校生がまだ来ない] → 帰らない</p>	<p>ゆきこ</p> <p>朝からうきうき ↓ 「そんな、できないよ」 ↓ 2時半までは遊べる ↓ 「みんなありがとう」 ↓ 「どうしようか」 (葛藤)</p>	<p>家族</p> <p>← [母から留守番を頼まれる] (3時には帰ってきて) ← [約束の時間] 帰る</p>
--	---	--

②判断・理由づけの段階表

帰らない

帰る

○ 罰一従順思考 (他律的な道徳)

行為の物理的な結果が、その人間の意味や価値に無関係に、その善意を決定する。罰を避けて、権威に対して盲目的に服従することに価値を見出す。

・みんなから嫌われる。・みんなといると楽しい。

・約束を破るとお母さん叱られる。
・約束だから。

○ 道具的一相対主義 (自己本位思考)

正しい行為というのは、自分自身の要求を、場合によっては他人の要求を道具的に満たす行為、つまり、報酬を得るための手段 (道具) となる行為を指している。結果的に利益を得たり、ほめられたりすることが価値あることと考える。

・わけを話せばお母さんもわかってくれる。
・自分が帰るとみんなから責められる。

・弟が1人になるとかわいそう。
・お母さんからほめられる。
・わけを話せば友達も分かってくれる。

○ 他者への同調,あるいは「よい子」志向

正しい行為というのは、他人を喜ばせたり、助けたりすることであり、他人から肯定されることである。多数意見,「自然な (普通の)」行動というステレオタイプの (紋切り型の) イメージに対して同調することが価値あることと考える。(例えば、兄として、友達として、等の期待に恥じないように行動しようとする。) また、行為は、しばしば意図によって判断されるようになる。

・みんなが自分のために祝ってくれているのに勝手に帰るのは悪い。・これまで自分のために一生懸命練習してくれたのを見ないで帰るのは悪いから。・美智子さんもわざわざ遠くから来てくれているのにいないのでは悪い。

・約束を破ることはお母さんにも弟にも迷惑がかかるから。・約束を破ることはお母さんを困らせるだけでなく、お母さんに仕事を頼んだ人も困らせるから。・風邪気味の弟を1人にしておくのはかわいそう。

3. 単元目標

- 道徳的問題の状況（信頼・友情・家族愛）を把握して、主人公はどうすべきかを判断し、その理由づけを考えることができる。
- ディスカッションを通して、信頼・友情・家族愛等の道徳的価値観を高め、より高い道徳的判断ができる。

4. 生徒指導の立場に立った単元の工夫

- 自己存在感
 - ・ 友達との関わり合いの中で、自分の考えのよさを承認してもらい、生活の中で生かしていけることに気づくことができるようにする。
- 共感的な人間関係
 - ・ 自分の考えをもち交流するだけでなく、友達の考えを聞きながら、そのよさを認め、共によりよい関係を築いていけるような場の設定をする。
 - ・ 自分の考えの主張だけでなく、相手のことを考えた、態度・心情を身に付けさせる。
- 自己決定
 - ・ 学習を通して、「どのようにすれば、相手も自分も不快感を得ずに、人間関係を保つことができるか」に視点をあてて考えさせるようにする。

5. 単元計画

1時間

6. 本時

平成19年11月20日（火） 第5校時 6年1組教室にて

7. 本時のねらい

- 道徳的問題の状況（信頼・友情・家族愛）を把握して、主人公はどうすべきかを判断し、その理由づけを考えることができる。
- ディスカッションを通して、信頼・友情・家族愛等の道徳的価値観を高め、より高い道徳的判断ができる。

8. 規範意識を高めるための本時授業の工夫

- 規範意識を高める本時の価値
本主題でのねらいは、これら二つの価値観での葛藤の経験から、自分なりの解決に到るまでの過程を通して、より高次の道徳的思考に気づかせることにある。具体的には、それぞれの児童の道徳的思考の段階よりも1段階上の道徳的思考に気づかせることである。
- 自己存在感をもたせるための工夫
資料について考えさせ、どのようにすれば、相手も自分も不快感を得ずに、人間関係を保つことができるかにまで考えさせることをねらいとして、友達との意見交流の中で、自分の考えや、そのよさを承認してもらい、生活の中で生かしていけるような場の設定をする。
- 評価の工夫
学習を通して、資料をと類似した経験を想起させたり、学習のはじまりと、終わりとで、自分の考えの深まり・高まりがわかるように、学習プリントに記入させる。

9. 本時指導の考え方

本時学習では、モラルジレンマ資料を用いて考えさせることを通して、二つの相対する価値に気づき、より高い価値へ、自分を高めていくことができるようにすることをねらいとしている。そのため、以下の3点に特に留意して、指導にあたりたい。

- (1) ここでは、児童の主体的な学習活動を成立させるために、2つの価値を内包するモラルジレンマ資料を用いて、討論を中心に展開する。また、どちらか一方の価値へ導くのではなく、最終的な判断は児童に行わせるオープンエンドの形式を取る。
- (2) 討論を活発なものにするために、児童が資料のあら筋をしっかりと捉えられるようにしたり、それぞれの児童の判断や理由が明確になるようにする。また、座席を固定せず意見のまとまりや違いに応じて、自由に移動できるようにする。
- (3) 討論においては、異なる段階の意見相互の交流を促すように配慮し、教師の介入をできるだけ行わないようにするが、思考活動が止まったり、意見が出なくなった時には、的確な方向づけを行う。

10. 準備

教師・・・学習プリント
児童・・・筆記用具

11. 本時の展開

主な学習活動	主な発問及び予想される反応	生徒指導の視点に立った支援
<p>1 本時のめあての確認をする。</p> <p>2 資料を読み、考えを持って、交流する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○ 主人公の気持ちや、どう考えればよいかを考えよう。</p> </div> <p>(資料内容の整理)</p> <p>① ゆきこはなぜうきうきしているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 由美から誘われている。 ・ 美智子に会える。 <p>② ゆきこはなぜお母さんの話を黙って聞いたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2時半過ぎまでは遊べる。 ・ お母さんや弟に悪い。 <p>③ 誕生会を開いてくれた由美たちのことをゆきこはどう思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ちゃんと覚えていてくれてありがとう。 <p>④ ゆきこさんは何を心配して迷っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 約束の時間に近づいた。 ・ 帰らなければならない。 ・ 美智子が未だ来ない。 ・ 帰るとみんなに悪い。 <p>⑤ ゆきこの行動としては、どんな行動が考えられますか。</p> <p style="margin-left: 20px;">A 帰る。</p> <p style="margin-left: 20px;">B 帰らない。</p> <p style="margin-left: 20px;">※ ゆきこはどうすべきだろう。</p> <p style="margin-left: 20px;">A “帰るべき”</p> <p style="margin-left: 20px;">B “帰るべきでない”</p> <p>○ ワークシートに書き込みましょう。</p> <p style="margin-left: 20px;">A “帰るべき”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わけを話せば友だちも分かってくれる。 ・ 帰らなければお母さんや弟に迷惑がかかるから。 <p style="margin-left: 20px;">B “帰るべきではない”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなから嫌われてしまう。 ・ みんなが自分のために祝ってくれているのに勝手にできない。 <p>○ それぞれの判断と理由を発表してください。</p> <p>◎ もし、ゆきこが帰ったら、由美や美智子たちはゆきこのことをどう思うでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうして帰ってしまうのかと残念に思う。 ・ 約束があったのだから仕方がない。 <p>◎ もし、ゆきこが帰らなかったとしたら、お母さ</p>	<p>生徒指導の視点に立った支援</p> <p>○ 場面ごとに立ち止まりながら教師が読み、そのつど発問を投げかけ、状況を整理して把握させる。</p> <p>○ お母さんとの約束を守らなければならない気持ちと友だちを大切にする気持ちがあって困っていることを押さえる。</p> <p>○ みちこは“帰るべき”か“帰るべきでない”かの2つで考える事を明確にする。【自己決定】【規範意識】</p> <p>○ 理由付けを詳しく書かせる。【自己決定】</p> <p>○ 各自の書き込みをもとにして自由に発表させる。【自己存在感】</p> <p>○ AとBのグループに別れて座席を配置する。【自己存在感】</p> <p>○ 発表の内容から、論点を整理して提示し、ディスカッションを進めさせる。【共感的人間関係】</p> <p>○ 発問は、ディスカッションの内容によって修正する。</p> <p>○ ディスカッションを踏まえ、より高い道徳的価値を考えられるように声かけをする。【規範意識】</p> <p>○ ディスカッションを踏まえて、自分の考えを変えてもよいことを知らせる。</p> <p>○ 自分の過去を想起させ、今までの失敗や、これからのことを考えさせる。【規範意識】【自己決定】</p>

	<p>んや弟はゆきこのことをどう思うでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんは、とても怒る。 ・自分勝手だと思う。 ・訳を話せばきっと分かってくれる。 <p>○ どうすることがいいと思いますか。</p>	
3 自分を振り返る。	○ 自分には、同じような経験がありませんでしたか。	
4 本時学習を振り返る。	○ 今日の学習で、どう思ったか、どんなことがわかったかを書き込みましょう。	

※ 評価

- 道徳的問題の状況（信頼・友情・家族愛）を把握して、主人公はどうすべきかを判断し、その理由付けを考えることができたか。
- ディスカッションを通して、信頼・友情・家族愛等の道徳的価値観を高め、より高い道徳的判断ができたか。

12. 成果と考察

- 「規範意識」を授業でどのように考えさせ、取り組めばよいのか、指導案作成の時から課題となった。その中で、道徳的思考をもって「規範意識」に気づかせ、もたせるようにしたかった。モラルジレンマでの学習を仕組んだことは、次の観点から、有効であったと考える。
 - ・ 自分の考えをしっかりとつことができた。
 - ・ 道徳的価値が、どちらが高いのかを、交流を通して、考え、判断することができた。
 - ・ 学習後の道徳的態度の育成につなげることができた。
- また、子ども達は、日常生活での出来事も、本活動を通して、相手を考えて言ったり、行ったりすれば、人間関係がよりよいものになることに気づくことができたと思われる。
- 本活動を通して、生徒指導の三機能である「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定力」と、本年度の重点的な取り組みである「規範意識」を高めることの密接性を感じた。特に共感的な人間関係を大切にしようとする子どもを育成するにあたっては、人間関係のお互いの意識が基盤となるものである。また、相手を大切に思うからこそ、その基盤とな共通項となる規範意識が重要なのだと考える。
- 学習後の生活場面で、子ども達が以前と大きく変わったかといえ、そんなには、変わっていないとはいえない。しかし、ある出来事に出会ったときに、どうすることが、よりよいことなのかを考えるようになったように感じられる。日記などでは、自分中心の内容から、相手のことを考えて、自分なりの考えをもったり、相談をもちかけてくる子どもも見られるようになった。（以前からもそのようなものはあったが、以前とは異なっているのを感じている。）
また、規範意識・共感的な人間関係をたかめていくことは、普段・日常からの相手との関わり合いにも依るところが大きい。今回の取り組みを通して、今までよりも相手との関係を深めて

いくことにつなげ、今後も意識を高めさせていく必要がある。

13. 資料

「ゆきこさんの誕生日」 (荒木紀幸編著『モラルジレンマ資料と授業展開』より)

智子さんが遊びにくるって電話をくれたの。あなたに会うのをとっても楽しみにしていたわよ。ぜったいきてよ。」と言われ、「必ず行くわ。」と返事をしていたからです。

ゆきこさんが出かける準備をしていると、お母さんがやって来て、「ゆきこ、今電話があって、3時にはどうしても仕事に出かけないといけなくなったの。いっしょに勤めている人が急病で、お母さんが代わりをすることになったの。ゆきこ、本当にすまないけど3時には帰ってきてよ。弟のあきおのこともお願いね。」「ああ、そうそう、あきおは風邪気味だから外へ出しちゃだめですよ。しっかりたのむね。」と、ゆきこに留守番を言いつけました。

ゆきこは、一瞬(そんな、できないよ)と言いかけてましたが、2時半すぎまでは遊べるんだし、お母さんのことやあきおのことを思うと、黙って聞くことにしました。

ゆきこさんは、約束の昼過ぎに由美さんの家へ行きました。由美さんに案内されて部屋に入るなり、一斉に拍手と歓声が起こり、「おめでとう、ゆきこさん!誕生日おめでとう。」とみんなから言われました。

ゆきこさんは、一瞬きょとんとしていましたが、「誕生日?わたしの誕生日はまだ、10日も先よ。」と言うと、「わかっているわよ。本当の誕生日は家族とするんでしょう。今日は、なかよしグループの私たちが、ゆきこさんの誕生日をしようって決めたの。ちょうど転校していった美智子さんも遊びに来るって知らせてきたから、それじゃーみんなでああなたの誕生日をやろうってことになったの。美智子さんももう来るわ。」と由美さんが言いました。

びっくりしていたゆきこさんも、みんなの気持ちがうれしくて、大きな声で「みんなありがとう。」と言って、頭を大きく下げました。そして、楽しいゆきこさんの誕生会が始まりました。

みんながもってきてくれた誕生プレゼントを開けてみたり、それで遊んだり、ゲームをしたりしているうちに、時計の2時を告げる音が聞こえました。あまりうれしかったので、時間のたつのをすっかり忘れていたゆきこさんは、お母さんとの約束のことが気になり始めました。ゆきこさんは、となりの由美さんに、「美智子さんはいつ来るの。」とたずねました。由美さんは、「心配しなくてもいいわよ。もうすぐ来るわよ。それに、まだ半分よ。びっくりすることが、まだまだあるんだから。」とにっこりとして言いました。

ゆきこさんの頭の中では、お母さんの顔や弟の顔、そして、美智子さんの顔が代わる代わる出たり入ったりしています。そして、誕生会をやってくれているみんなのことが気になります。ゆきこさんは……。